



事業戦略 リサイクル

脱炭素(カーボンニュートラル)が加速する中、市場が変化 培った独自技術で社会に貢献する

リサイクルは株式会社アビツ(産業廃棄物のリサイクル事業)と株式会社SMART(設備やプラント処分の元請事業)、その他で構成されています。持続的な企業成長のために、環境配慮は必要不可欠で重要な課題です。当社では、リサイクルを事業領域に持ち、廃自動車を適正に処理し、限りある資源を有効に活用することで社会課題の解決に貢献します。

株式会社アビツ
取締役事業本部長
株式会社SMART
代表取締役社長
佐野 拓也



売上構成比率



[事業の特徴]

特許取得技術

- ①再生利用が困難とされていた自動車シュレッダー軽量ガストを集塵鉄粉と混練・整形し再資源化する技術で特許を取得。高炉製鉄所において融解した鉄の飛散防止剤として使用することで、廃棄物の削減と再資源化に大きく貢献。
- ②産学共同で、熱電変換素子のビスマス・テルル合金などをリサイクルする技術を開発し、特許を取得。

他社が まねできない 独自技術

使用できない熱硬化性樹脂を使用し、アルミのスラグを混ぜて混練して固めてできる省エネ資材は、アビツのみが作ることができる商品。これは昇熱剤であり、スラグ調整剤であるため電気炉メーカーに納品し、少ない電力量で鉄を溶かしてもう一度鋼を作るのに役立っている。

SWOT分析

強み Strength	<p>〈アビツ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●独自のリサイクル技術(特許取得) ●中京圏最大面積のヤードとビジネス環境に適した立地 ●幅広い廃材に対応できるプラントの設計技術 <p>〈SMART〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三井住友グループと連携した、コスト低減・情報ソース・リユース販路・提案力 	弱み Weakness	<p>〈アビツ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●労働環境が厳しいことによる人材流出と技術の継承問題 <p>〈SMART〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業成長に伴う人員の不足
機会 Opportunity	<p>〈アビツ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●製造業によるリサイクル事業開始 ●廃プラスチックの再資源化 <p>〈SMART〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高度経済成長期の構築物の老朽化 ●製造業、エネルギー産業への投資マネーの増加 <p>〈共通〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素化の推進によるリサイクル業の見直し 	脅威 Threat	<p>〈アビツ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●競合が乱立する市場環境の中で差別化の図りにくさ ●リサイクル業界全体のマイナスイメージ <p>〈SMART〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同様のビジネスモデルの出現

事業戦略

■USSグループの一翼事業として社会課題に立ち向かう

- リサイクル事業に着手し始めた製造業と協業することで、自社の独自技術を活かしたビジネスチャンスを狙う。
- リサイクルモデルの構築。

(参考)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託を受け、タイで電子機器廃棄物のリサイクルシステムを構築。NEDOはアビツとともに同事業を足掛かりとして国際的な資源循環を実現し、アジア各国におけるリサイクルモデルの確立につなげる方針。